

はじめに

大学は、国の成長・発展をリードする知的拠点として社会全体に寄与してきた。さらに近年、国や地域を越えた研究者や学生の流動性が高まり、国内外での大学間競争が激化するなか、国際競争力の確保等の国家戦略においても、極めて重要な役割を担っている。

関西大学は、教育研究の指導理念である「学の実化」を学是とし、この理念を具現化するため、長い歴史と伝統のなかで、時代の変遷に応じた独自の教育目標を掲げ、国内だけでなく国際社会にも広く貢献する人材の輩出に努めてきた。

来る、平成 28（2016）年 11 月に創立 130 周年を迎える本学は、誇るべき伝統を継承しつつも、“21 世紀型「学の実化」を志向するインターカルチュラル・イマージョン・キャンパス”を企図した国際化構想の策定、天六キャンパスの売却と梅田における新拠点の開設等により、次世代に向けた新たな一歩を踏み出そうとしている。

平成 27 年度は、「国際化戦略 2014-2023 T R I P L E I（トリプル・アイ）構想」を進めていくための、基幹的な教学組織の設置準備を行い、推進体制を整備する。言語教育カリキュラム改革、入試改革、ガバナンス改革及び海外サテライトの設置など、今後 10 年間の長期的な大学改革構想を実現するための基盤づくりを進める。

梅田の新拠点については、梅田サテライト・オフィスでの心理臨床センター、キャリアセンター、「弁護士法人あしのは法律事務所」と連携した法科大学院の正課教育や修了生支援等の事業を展開しつつ、平成 28 年度に予定している北区鶴野町での「関西大学梅田キャンパス」開設を目指して、教育研究上の活用施策の検討を進め、土地・建物の整備に取り組んでいく。

創立 130 周年記念事業では、「国際性・知性と先進性・歴史と伝統」の 3 つのテーマに即した周年事業を順次実施するとともに、募金活動も積極的に推進するなど、構成員が一丸となって、その機運を盛り上げていく。

平成 27 年度の収支見通しは、天六キャンパスの売却等により、単年度の収支では 30 億 7,200 万円の収入超過を見込んでいる。但し、これを原資として、平成 28 年度以降梅田キャンパスの開設等の施設整備を予定している。さらに、減価償却計算方法の変更等により、翌年度に繰り越す支出超過は約 177 億円縮小するものと見込んでいるが、今後、教育研究環境の整備・充実に対応し、本学が永続的に発展していくためには、将来的な投資財源を確保しておく必要がある。

また、このたびの学校法人会計基準の改正により新たに作成する計算書では、経常的収支と臨時的収支が明確化され、単年度の経常的収支の確保に重点をおいた大学経営が求められていることから、恒常的な財政の健全性を高めていかなければならない。

このような状況を踏まえ、より一層、財務基盤の強化を図るため、戦略的な事業や緊急性のある課題には優先的に予算を配分しつつ、単年度では収支均衡を目指して、平成 27 年度予算を編成するものとする。